

東京藝術大学

令和7年度 財務レポート

(令和7事業年度 令和7年4月1日～令和8年3月31日)



TOKYO GEIDAI

東京藝術大学の使命と目標

東京藝術大学は、その前身である東京美術学校、東京音楽学校の創立以来130余年間、我が国の芸術教育研究の中枢として、日本文化の伝統とその遺産を守りつつ、世界の芸術思想及び技術を摂取、融合を図り幾多の優れた芸術家、中等教育から高等教育に亘る芸術分野の教育者・研究者を輩出してきました。

東京美術学校



東京音楽学校



こうした歴史的経緯を踏まえつつ、総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国ひいては世界の芸術文化の発展を担い、社会とともに芸術の多様な価値を創出することが、東京藝術大学の使命であると考えています。

また、この使命の遂行のため、以下のことを基本的な目標としています。

- 世界最高水準の芸術教育を行い、
高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わる全ての実践者を養成する。
- 国内外の芸術教育研究機関や他分野との交流等を行いながら、
伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進する。
- 心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促す活動や、
全ての人が芸術に親しむ機会の創出に努め、芸術をもって社会に貢献する。



上野校地



取手校地

横浜校地

千住校地

第4期中期目標期間におけるビジョン

芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会的課題の解決

第4期中期目標期間（R4～R9年度）においては、本学の使命と目標を踏まえ、また、これからのあるべき社会・世界を見据え、我が国唯一の国立総合芸術大学として、社会変革を駆動する決定的な役割を担うべく、その機能を拡張しつつ、デジタル技術等も取り込みながら新たな芸術領域を開拓し、芸術をより一層社会の中に接続させることで、「**芸術の力による、または、芸術と異分野との融合による、社会的課題の解決**」を全学的に推進していくことを基本的な方針として掲げています。

実現のための計画・方策

社会との共創

産学官を越えた世界最高水準の国際的な芸術文化拠点の構築

世界各国の卓越した芸術大学・機関・団体との連携・交流・協力

芸術の価値の社会発信により投資を呼び込み教育研究を高度化する好循環システムの構築

全国の地方自治体や産業界・関連機関との連携・協働の深化と、教育研究およびその成果の発信・社会実装の推進

芸術の力による誰一人取り残さない包摂的な共生社会の実現

幅広い年代の市民が芸術に親しむ機会の充実化

教育・研究

世界・社会で活躍するトップアーティストの戦略的育成の推進

芸術と社会との繋がりや異分野についての幅広い学修機会の整備、分野横断的なプログラムおよび新しい専攻の整備、企業等との共同研究の機会の充実化

芸術の力による社会的課題の解決を实践する社会人のキャリアアップ支援

履修証明プログラムや企業人向けの研修プログラム等の充実化

国際感覚を持った人材の養成

海外一線級アーティストの指導機会や国際共同プロジェクトの拡充

学術研究の卓越性・多様性の強化と継承・発展

芸術の継承と新しい表現の創造の深化、芸術資源の保存・アーカイブ化の促進、多様な人材が集う芸術分野の研究拠点の形成

大学運営

強靱なガバナンス体制の構築

経営・運営の意思決定への監事や外部委員の参画、地方自治体や民間企業等と意見交換する仕組みの構築

施設及び設備等の保有資産

「インフラ長寿命化計画」に基づく施設設備の運用、スペースチャージの拡大等による土地建物の有効活用、デジタル空間上のキャンパス「東京藝大デジタルツイン」の整備・活用の推進

東京藝術大学の基礎情報

学生数					
	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	1,011名	990名	-	-	2,001名
大学院（修士）	567名	285名	156名	26名	1,034名
大学院（博士）	123名	64名	12名	23名	222名
別科	-	54名	-	-	54名
附属高等学校	-	113名	-	-	113名

学位授与数・修了者数・卒業者数					
	美術	音楽	映像	国際芸術創造	合計
学部	219名	232名	-	-	451名
大学院（修士）	230名	90名	64名	11名	395名
大学院（博士）	35名	15名	3名	5名	58名
別科	-	24名	-	-	24名
附属高等学校	-	37名	-	-	37名

※論文博士を含む

教職員数		建物及び土地面積		
教員	257名	校地	建物延	土地
職員等	174名	上野校地	98,851㎡	69,663㎡
合計	431名	取手校地	22,505㎡	164,095㎡
		横浜校地	4,667㎡	1,927㎡
		千住校地	6,546㎡	4,045㎡
		奈良・古美術研究施設	1,036㎡	1,792㎡
		東和・藝心寮	8,846㎡	7,811㎡
		愛住・美術愛住館	579㎡	350㎡
		合計	143,030㎡	249,683㎡

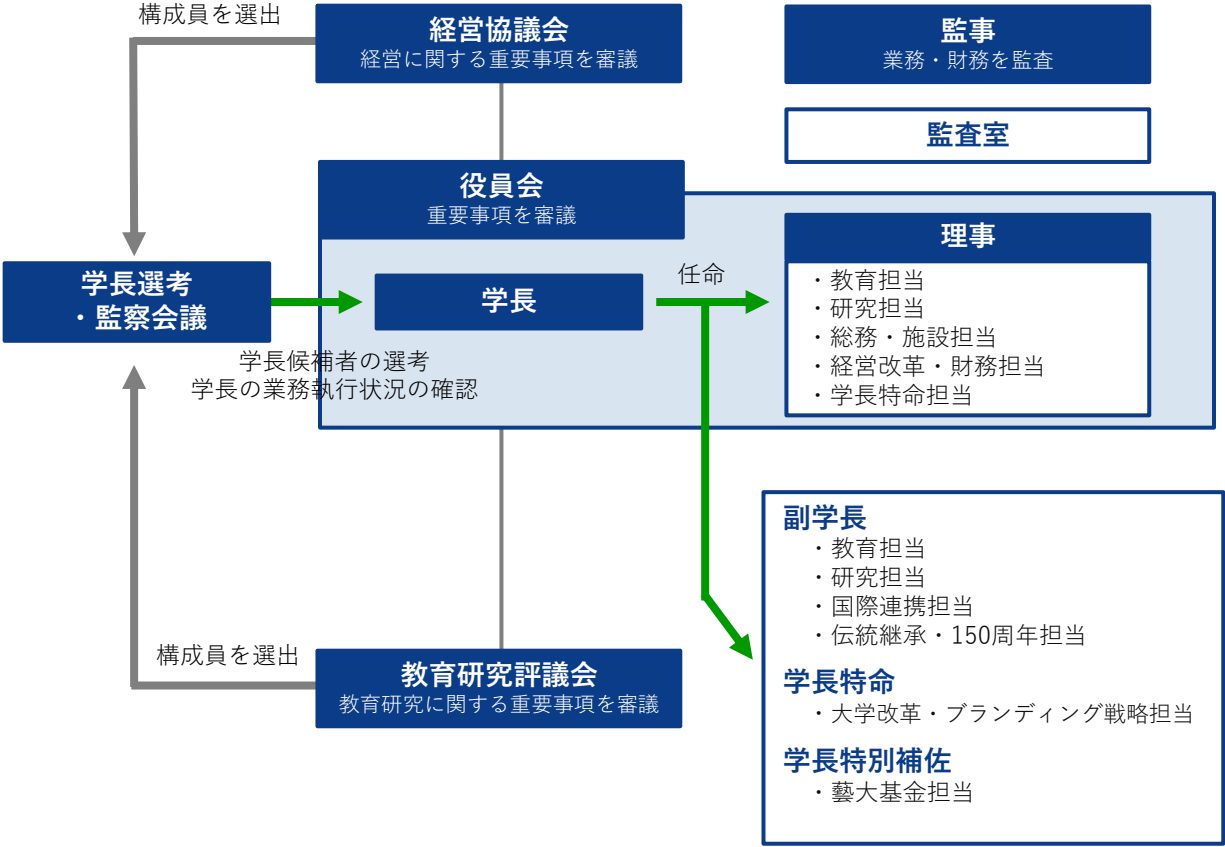
国際交流	
大学間交流協定締結機関	30カ国・地域 81機関
外国人留学生	32カ国・地域 252名

所蔵品・楽器・蔵書	
美術工芸品・標本・資料	30,927件
楽器	2,803点
蔵書冊数	428,782点
雑誌	5,492タイトル

※学位授与数・修了者数・卒業者数は令和7年度実績
そのほかは令和8年5月1日現在の実績を示す

運営体制

※令和 8 年3月31日現在



部局	
・学部 ・美術学部　－　事務部 ・附属古美術研究施設 ・附属写真センター ・音楽学部　－　事務部 ・附属音楽高等学校 ・藝大フィルハーモニア管弦楽団 ・大学院 ・美術研究科 ・音楽研究科 ・映像研究科　－　事務部 ・国際芸術創造研究科 ・大学別科	・附属図書館　－　事務部 ・大学美術館　－　事務部 ・社会連携センター ・未来創造継承センター ・言語・音声トレーニングセンター ・演奏芸術センター ・保健管理センター ・芸術情報センター ・藝大アートプラザ

事務局

- ・企画総務課
- ・経営改革プロジェクト課
- ・人事労務課
- ・財務会計課
- ・社会連携課
- ・学生課
- ・施設課
- ・千住校地事務センター

令和7年度の主なTOPIC

社会との共創

芸術未来研究場・J-PEAKS事業における取組の推進

令和5年に新設した「芸術未来研究場」は、全学横断的に学外の様々な組織と協働・連携して、社会の様々な領域におけるアートの新たな価値や役割を創出することを目指しています。研究場では、福祉やデジタル、ビジネス等の各領域における教育研究に加え、社会と芸術の持続的な共創モデルの構築に向けた3つの特別研究プロジェクトを推進しており、これらにおいて令和7年度は以下の大きな進捗がありました。



SIOME特設サイト <https://setouchi.ac/>

香川大学との連携事業「SIOME」では、香川県や香川県内の自治体・機関と協働して、瀬戸内海エリアの社会的課題に対して、科学×アートの視点での解決に取り組んでいます。そのうち海洋環境改善に係る、香川大学・日本政策投資銀行・庵治漁業協同組合による、CO₂を吸収する藻場造成構造物に係る取組が「Jブルークレジット」の認証に至りました。また、離島環境でのまちづくりプロジェクト「ぐんだら家」等の取組が、令和7年度に「東かがわ市未来アワード（地域活性化・地域貢献部門）」を受賞し、地域の活性化への貢献が認められました。

東京都・アーツカウンシル東京と連携して、ろう者と聴者の相互作用から生まれる芸術表現「デフオペラ」を開発し、舞台作品『黙るな動け呼吸しろ』を東京2025デフリンピックの文化プログラムとして上演しました。多様な人々が共生する未来の社会を見据えた新しい芸術表現の形として、将来的な再実践に向けて、制作プロセスも含めた作品全体のアーカイブ化にも取り組みました。

『黙るな動け呼吸しろ』特設サイト <https://duk-tokyooforward2025.jp/>



三菱地所株式会社と連携して進めている「TOKYO WELL CITY」構想では、アートを基盤として、働く人や組織のWell-beingやCreativityが自然と高まる都市の形成を目指しています。令和7年度は、連携機関によるコンソーシアムの立上げ、日常空間・場所が持つ特性を活用した「野良展示」等の実証企画や、社会人向けの授業シリーズ「有楽町藝大キャンパス」を行ったほか、ニューヨークの現代美術館New Museumが運営するインキュベーション・プラットフォーム「NEW INC」にNYでの活動拠点「GEIDAI NY DESK」を開設しました。

※プレスリリース <https://www.geidai.ac.jp/news/20260327156940.html>

東京大学と包括連携協定を締結

令和7年5月に東京大学と包括連携協定を締結しました。東京大学とは、教育・研究・社会貢献の全般において、両大学の特長を活かした多様な活動を通じ、その知見の展開により、教育研究を通じた人材育成及び地域社会への貢献に寄与することを目指しています。令和7年度では、谷根千・本郷周辺の地域を舞台に「ベンチ」を通じて『場づくり』について思考・実践する「藝大×東大ベンチプロジェクト」等を実施しました。

※プレスリリース <https://www.geidai.ac.jp/news/20250514148564.html>



令和7年度に新たに締結した企業・自治体等との連携協定

- ・東京国立博物館 相互の連携・研究協力により、芸術教育の発展、文化芸術の振興に寄与～
- ・香川大学・日本政策投資銀行 「アート」×「科学」×「金融」の融合による、豊かな瀬戸内海の創生に寄与
- ・国立教育政策研究所 教育・研究活動の充実、人材育成及び地域社会の発展に寄与

令和7年度の主なTOPIC

教育・研究

Shared Campusを活用した国際共創

芸術系大学の国際協力プラットフォーム「Shared Campus」にフルパートナーとして加盟しており、地球規模の課題の解決に向けた学術的交流を行っています。令和7年度は、愛媛県でサマースクールを実施し、香港、シンガポール、オーストラリア、インド、台北、スイスから集まった学生とともに、地方都市におけるサステナビリティをテーマに、愛媛県各地でのフィールドリサーチと制作活動を展開し、地域の芸術祭「art venture ehime fes 2025」で成果展示を行いました。



プログラムに先駆けて、国立台北芸術大学、愛媛県、本学とで文化芸術国際交流に係る覚書を締結しており、令和10年に愛媛県で開催される国民文化祭に向けて、今後も継続的に交流活動を展開する予定です。

※Shared Campus プログラム情報 <https://global.geidai.ac.jp/about/shared-campus/>

産学共創研究拠点「映像リサーチセンターDoCK」スタート

文化庁「クリエイター等支援事業（育成プログラム構築・実践）」に、本学映像研究科の事業構想が採択され、その活動拠点となる「映像リサーチセンターDoCK」を映像研究科に設置しました。



国際的・分野横断的に活躍できる卓越したクリエイターやプロデューサー、教育研究の知を蓄積・共有するリサーチャーや、教育実践を担うエデュケーター等の人材育成を目標に、アニメーション・映画等を専門とする国内外の教育機関、業界団体、民間企業と協力して、育成プログラムの開発・実践に取り組みます。

多様な財源の確保

賛助会員制度「東京藝術大学アカンサス倶楽部」を創設

新たな賛助会員制度「東京藝術大学アカンサス倶楽部」を創設しました。倶楽部では、賛助会員と本学役職員との懇談の場を定期的に設け、経済界・芸術団体・卒業生等の多様なステークホルダーとの対話を通じて相互理解を深め、本学の発展に向けた連携や協力関係を育む場としていきます。会員の方々に対し、研究室探訪、ギャラリーコンサート等本学の教育研究に直接触れる特別な体験を特典として提供することで、継続的な関係性の醸成につなげていきます。



発起人会でのオープニング演奏

「東京藝術大学取手キャンパス 安田容昌・安田祥子基金」を設置

安田容昌氏のご寄附10億円により、取手キャンパスの施設設備等を再生し、同キャンパスと周辺地域が一体となって活性化させる環境を創出し、芸術文化の新たな創造拠点として発展させることを目的として、同基金を設置しました。取手キャンパスの潜在能力を引き出し、地域社会との連携をさらに進化・加速させることにより、同キャンパス及び周辺地域を、地域に根差した、世界に開かれた芸術文化の新たな創造拠点として発展させ、未来の日本社会に向けた文化的な地域創生のモデルを構築することを目的としており、その実現に向けて、多大なるご支援を大切に活用してまいります。

※プレスリリース <https://www.geidai.ac.jp/news/20251008152520.html>

学部・研究科の実績

美術学部・研究科

社会との共創

学内外の施設を活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

民間企業や地方自治体等と連携した多数の展覧会やプロジェクトを実施するとともに、**学生** **にとっての社会実践の機会**としても機能させました。

- 【民間企業・自治体等と連携したプロジェクトの例】
- ・長野県東御市との連携事業「天空の芸術祭」
 - ・東京都子供オープンキャンパス、東京都特別支援学校アートプロジェクト展
 - ・長野県伊那市との連携40年を記念した信州高遠美術館における「藝大卒展<サテライト>」
 - ・花王株式会社との共同研究成果展「Scent of the Moon 月の香りを想像する」
 - ・銀座伊東屋での「藝大in銀茶会」
 - ・寺社文化財や被災文化財の修復・復元事業

教育・研究

海外大学・機関との交流の拡大

海外大学・機関との数々の交流に加え、**ウィーン応用芸術大学との連携プロジェクト「カルチャースクリーン」**、**アイルランド大使館等に招待され参加した「Kwaidan」展**が、**2025大阪・関西万博に出展**されるなど、芸術文化による国際交流にも大いに貢献しました。

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況		152	
主な内容		財源の内訳	
・古美術研究施設改修工事の実施や試験機器等を更新し、教育研究環境の改善に取り組んでおります。		運営費交付金	0
		授業料・その他自己収入	27
		目的積立金等	75
		寄付金	2
		施設整備費	-
		補助金	48
運営状況			
費用	2,974	収益	2,974
教育経費	647	運営費交付金収益	1,417
研究経費	174	学生納付金収益	1,244
教育研究支援経費	1	外部資金	268
受託研究他	88	自己収入	18
人件費	2,020	その他	27
一般管理費	44		
その他	0		
		外部資金の内訳	
		受託研究収益	16
		共同研究収益	1
		受託事業等収益	50
		寄附金収益	85
		施設費収益	-
		補助金等収益	116

社会との共創

学内外の施設を活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

本学の奏楽堂等を活用し、各種有料演奏会、試験演奏会、学位審査演奏会等を開催したほか、学外の企業・団体等からの依頼に基づく演奏活動を多数実施するとともに、**学生を派遣する等の取組により、実践的な活動機会の充実**を図りました。

【学外の企業・団体等からの依頼に基づく演奏活動の例】

- ・北とぴあ国際音楽祭2025 芸大とあそぼう in 北とぴあ
- ・LEXUS コンサート
- ・東叡山寛永寺創建400周年記念祝賀会
- ・霞ヶ関コモンゲート・コンサート
- ・各種授賞式・全国戦没者追悼式など式典における演奏、小中学校等へのアウトリーチ活動

教育・研究

海外大学・機関との交流の拡大

数々の海外一線級演奏家の招聘や演奏会での共演を実現したほか、**パリ国立高等音楽院や国立台湾藝術大学、韓国芸術総合学校等の海外の音楽系大学との交流演奏会や教育プログラムを実施**しました。また、**ベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー派遣4期生のオーディション**を行い、修士課程修了生1名の派遣が決定しました。

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

46

主な内容

・楽器やスタジオ機器等の更新や空調設備改修工事を実施し、実習環境の改善に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	-
授業料・その他自己収入	5
目的積立金等	27
寄付金	0
施設整備費	-
補助金	14

運営状況

費用	2,214	収益	2,214
教育経費	526	運営費交付金収益	929
研究経費	51	学生納付金収益	989
教育研究支援経費	1	外部資金	218
受託研究他	73	自己収入	57
人件費	1,530	その他	21
一般管理費	31		
その他	2		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	5
共同研究収益	3
受託事業等収益	45
寄附金収益	63
施設費収益	-
補助金等収益	102

社会との共創

学内外の施設やオンラインを活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

キャンパスが所在する横浜市をはじめ、地域や企業と連携した成果発信を推進しました。

【民間企業・地方自治体と連携した成果発信の例】

- ・横浜市地域貢献事業：横浜市民等に向けた上映会・公開講座・子供向けワークショップ
- ・ヤマハとの共同研究『「春の海」生演奏・アニメーション・AI コンサート』の制作・上演
- ・Amazonの邦画専門チャンネル「日本映画NET」での映画専攻実習作品の総特集
- ・東映アニメーション×DeNA×アニメーション専攻企画開発研究室によるクリエイターズレーベル「GREEN OCEAN」

教育・研究

令和8年度にゲーム・インタラクティブアート専攻が開設

これまでのゲームコースでの成果を発展させ、令和8年度から修士課程にゲーム・インタラクティブアート専攻を開設することが正式に決定しました。令和8年度入学試験では、入学定員20名を大きく超える143名の志願者が国内外から集まりました。また、開設に先駆けてゲーム系企業との共同研究や共同教育プロジェクトが始動するなど、受験生・産業界の双方から高い期待が寄せられています。



財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

69

主な内容

・ゲーム・インタラクティブアート専攻関連工事の実施や研究機器の更新を行い、教育研究活動の充実化に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	-
授業料・その他自己収入	0
目的積立金等	34
寄付金	1
施設整備費	-
補助金	34

運営状況

費用	640	収益	669
教育経費	201	運営費交付金収益	338
研究経費	79	学生納付金収益	139
教育研究支援経費	-	外部資金	183
受託研究他	25	自己収入	1
人件費	331	その他	8
一般管理費	4		
その他	0		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	19
共同研究収益	4
受託事業等収益	23
寄附金収益	10
施設費収益	-
補助金等収益	127

社会との共創

学内外の施設を活用した教育研究成果の発信および実践的な教育機会の充実

キャンパスが所在する足立区をはじめ、地域やNPO法人等と連携した多彩なアートプロジェクトの企画・運営に学生が参加するなど、実践的な教育を行いました。

【地域やNPO法人等と連携したアートプロジェクトの例】

- ・足立区千住のまちなかアートプロジェクト「アートアクセス 音まち千住の縁」
- ・山形県酒田市との連携「アーティスト・イン・レジデンスさかた」
- ・有楽町アートアーバニズムおよび東京都日の出町地域の福祉法人や学校・団体等と連携「東京山芸術大学」

教育・研究

海外アーティストおよび学内連携による次世代人材育成の推進

文化庁「大学における芸術家等育成事業」に「クラシック音楽上演の変容と改革のためのワークショップと実践事業」が採択されました。世界で活躍する芸術家集団 Le Balcon（ル・バルコン）および、音楽学部や美術学部、映像研究科、演奏芸術センターとの協働を通じて、若手音楽家に対して、クラシック音楽を核に他ジャンルを横断しながら未来の舞台芸術を担うための教育プログラム「AVEC LE BALCON」を実施しました。

財務情報

(単位:百万円)

教育研究環境への投資状況

1

主な内容

・プロジェクタやコンピュータ等の研究機器を更新し、教育研究環境の整備・充実化に取り組んでおります。

財源の内訳

運営費交付金	-
授業料・その他自己収入	-
目的積立金等	1
寄付金	-
施設整備費	-
補助金	0

運営状況

費用	195	収益	195
教育経費	40	運営費交付金収益	127
研究経費	18	学生納付金収益	33
教育研究支援経費	-	外部資金	33
受託研究他	2	自己収入	0
人件費	135	その他	2
一般管理費	0		
その他	0		

獲得外部資金の内訳

受託研究収益	-
共同研究収益	-
受託事業等収益	-
寄附金収益	3
施設費収益	-
補助金等収益	30

令和 7 事業年度決算

財務諸表等の概要

国立大学法人では、国民その他ステークホルダー（利害関係者）に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点からの作成及び公表が義務付けられています。ここでは、皆様に本学の財務状況をお伝えするために、令和 6 年度決算のポイントを説明します。

正式な財務諸表等は、こちら（東京藝術大学HP）に掲載されています。

https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal/library_of_legalinfo#FinancialInformation

1. 貸借対照表の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和 6 年度)	令和 7 年度	増減	増減比
資産の部	(72,891)	75,425	2,534	3%
【主な科目】				
土地	(37,421)	37,421	0	0%
建物・構築物	(21,864)	21,164	△ 700	-3%
工具器具備品 ※1	(1,117)	1,029	△ 87	-8%
図書	(1,550)	1,571	21	1%
美術品・収蔵品	(5,049)	5,297	248	5%
現金及び預金 ※2	(4,327)	6,010	1,682	39%
負債の部	(6,320)	9,089	2,768	44%
【主な科目】				
長期前受収益	(1,586)	1,498	△ 88	-6%
運営費交付金債務 ※3	(109)	72	△ 36	-34%
寄附金債務 ※4	(2,222)	4,665	2,442	110%
未払金	(912)	931	19	2%
純資産の部	(66,571)	66,336	△ 234	0%
【主な科目】				
前中期目標期間繰越積立金 ※5	(428)	330	△ 98	-23%
目的積立金 ※6	(695)	854	159	23%
当期末処分利益	(466)	524	58	13%

対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

- ※1 工具器具備品：減価償却費の増加等のため、前年度より減少している。
- ※2 現金及び預金：寄附金受入額の増加等のため、前年度より増加している。
- ※3 運営費交付金債務：前年度から繰り越された基盤的設備整備のための交付金の執行等のため、減少している。
- ※4 寄附金債務：※2と同様、寄附金受入額の増加等のため、前年度より増加している。
- ※5 前中期目標期間繰越積立金：ゲーム・アートインタラクティブ専攻ラボ改修工事等の財源として取り崩したため、前年度より減少している。
- ※6 目的積立金：前年度の未処分利益のうち、経営努力により生じたものとして、文部科学大臣の承認を受けた分を計上したため、増加している。

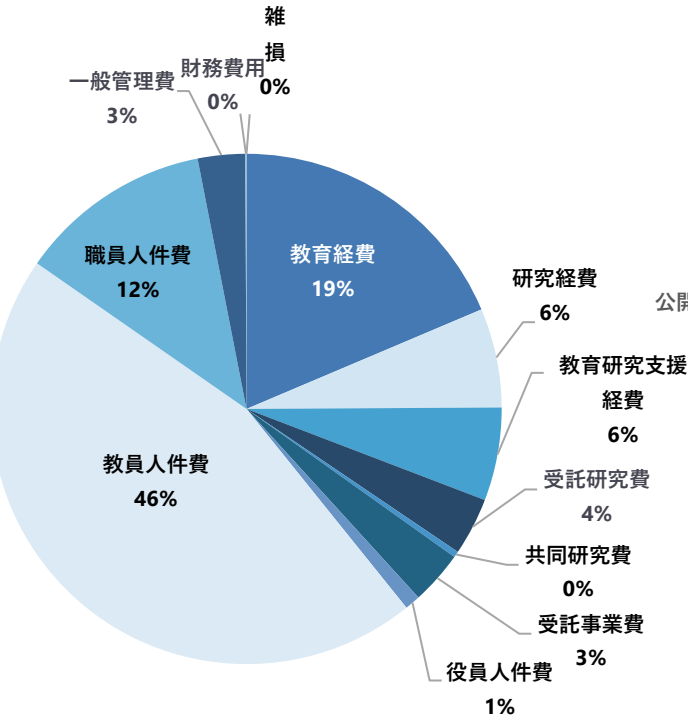
2. 損益計算書の概要

(単位：百万円、単位未満切り捨て)				
科目	(令和6年度)	令和7年度	増減額	増減比
経常費用	(9,296)	9,643	346	4%
【主な科目】				
教育経費	(1,670)	1,796	125	8%
研究経費	(606)	606	0	0%
受託研究費等	(620)	715	95	15%
人件費	(5,549)	5,660	110	2%
一般管理費	(315)	289	△ 25	-8%
経常収益	(9,621)	9,936	315	3%
【主な科目】				
運営費交付金収益	(5,042)	5,042	0	0%
学生納付金収益	(2,446)	2,453	6	0%
受託研究等収益等	(640)	733	92	14%
寄附金収益 ※1	(458)	382	△ 75	-16%
施設費収益 ※2	(89)	67	△ 21	-24%
補助金等収益 ※3	(513)	812	299	58%
入場料収入	(63)	72	8	14%
公開講座等収入	(103)	110	6	7%
経常利益	(324)	293	△ 31	-10%
臨時損失 ※4	(15)	0	△ 14	-95%
臨時利益 ※5	(41)	0	△ 41	-99%
目的積立金取崩額等 ※6	(114)	231	116	102%
当期総利益	(466)	524	58	13%

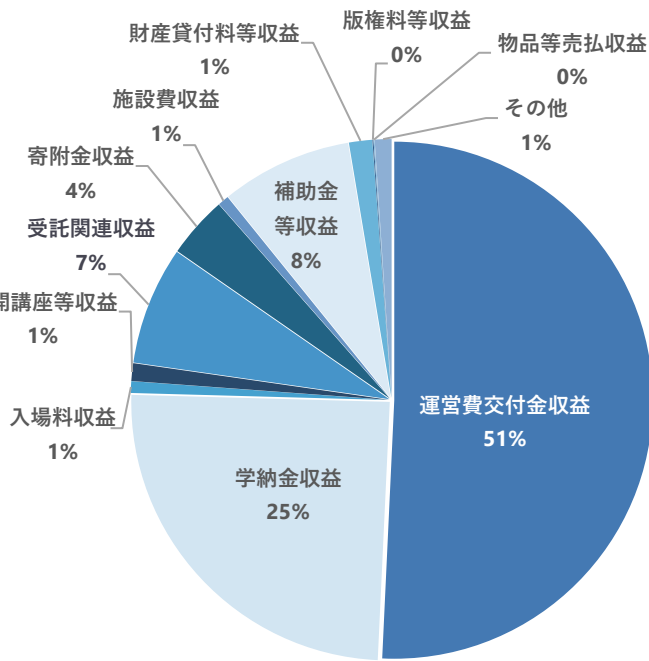
対前年度増減比率が大きい科目とその主な増減要因

- ※1 寄附金収益：前年度に高額な楽器の寄附受入を行ったこと等の影響もあり、減少している。
- ※2 施設費収益：施設整備費補助金の交付額の減少等のため、前年度より減少している。
- ※3 補助金等収益：「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」関連の費用の増加等のため、前年度より増加している。
- ※4 臨時損失：前年度に施設整備費の返還を行ったこと等の影響もあり、減少している。
- ※5 臨時利益：過年度に寄附を受けた楽器受入の会計処理を前年度に行ったこと等の影響もあり、減少している。
- ※6 目的積立金取崩額等：美術学部附属古美術研究施設改修工事等の財源として取り崩したため、前年度より増加している。

経常費用の内訳



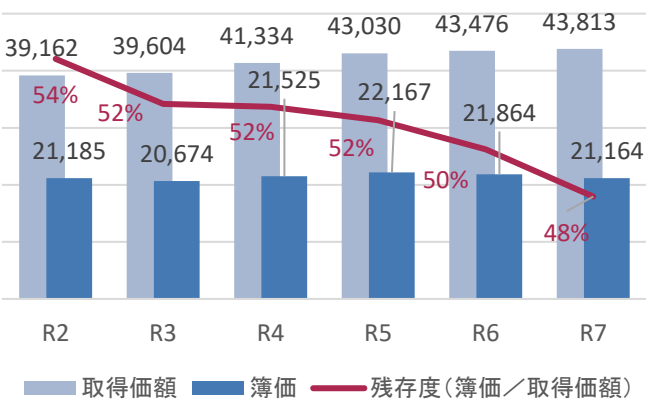
経常収益の内訳



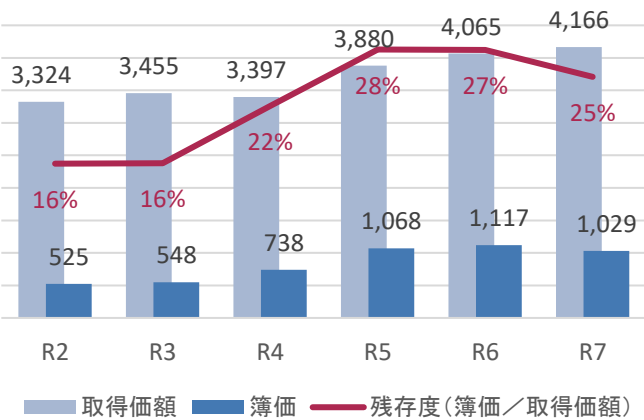
3. 有形固定資産

(単位：百万円)

施設（建物・構築物）の推移



設備（工具器具備品）の推移

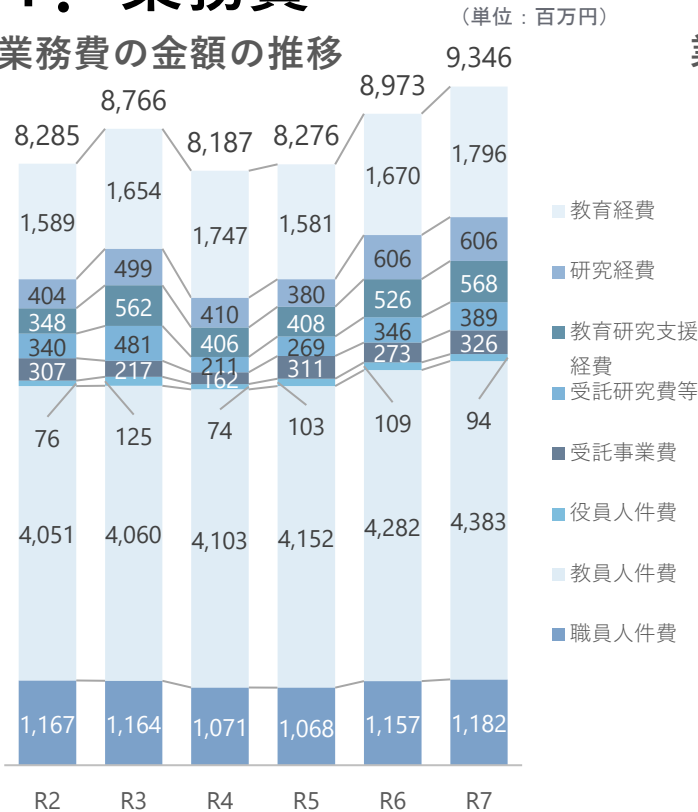


【施設】投資により取得価額が増加している一方で、簿価及び残存度は減少傾向にあるため、投資は進んでいるが、それ以上に老朽化・陳腐化が進んでいることが推測される。

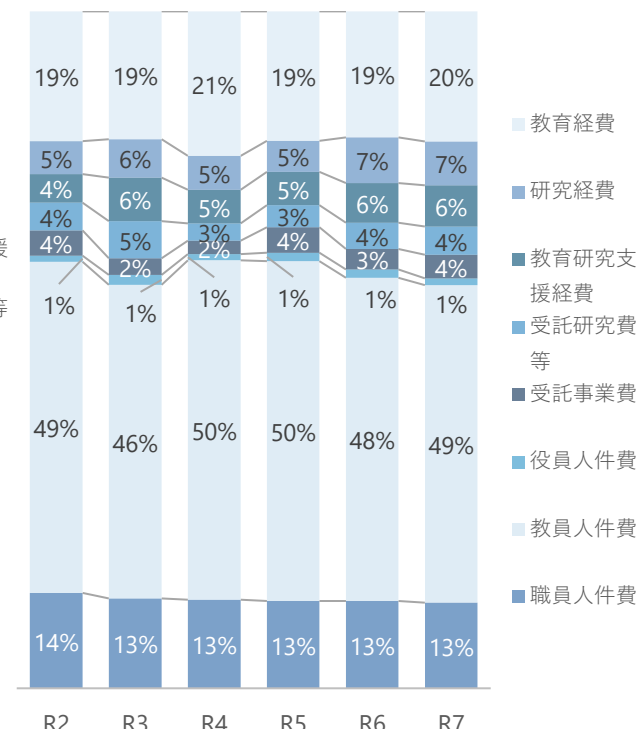
【設備】取得価額は増加しているが、簿価が減少に転じ、残存度の減少率も大きくなっているため、投資に対して、老朽化・陳腐化が進んでいることが推測される。

4. 業務費

業務費の金額の推移

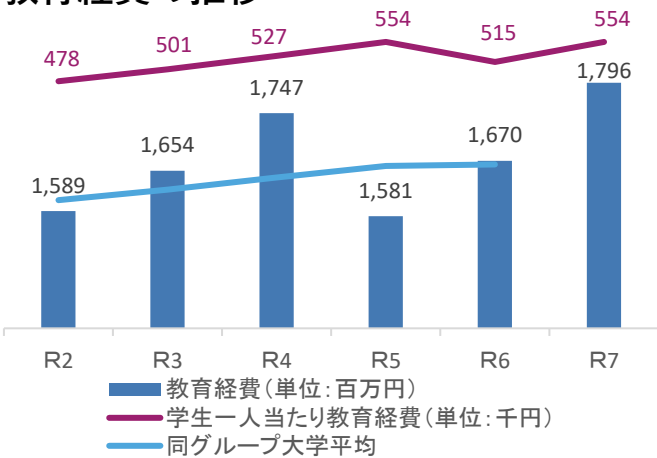


業務費の割合の推移



5. 教育経費・研究経費

教育経費の推移

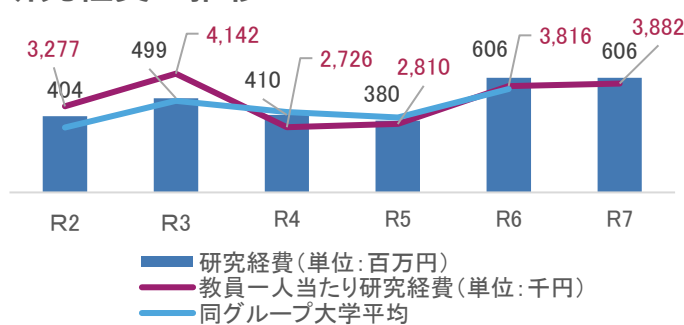


教育経費は、前年度に引き続き増加している。
学生一人当たり教育経費については、同グループの大学の平均を上回る状況が続いている。

学生一人当たり教育経費: 学生当たりの教育経費であり、この数値が大きいほど学生一人当たりにかけられた教育目的の物件費等が大きいことを示す。

同グループ文科系大学 (福島大学、筑波技術大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学 (、令和3年度まで小樽商科大学を加えて比較))

研究経費の推移



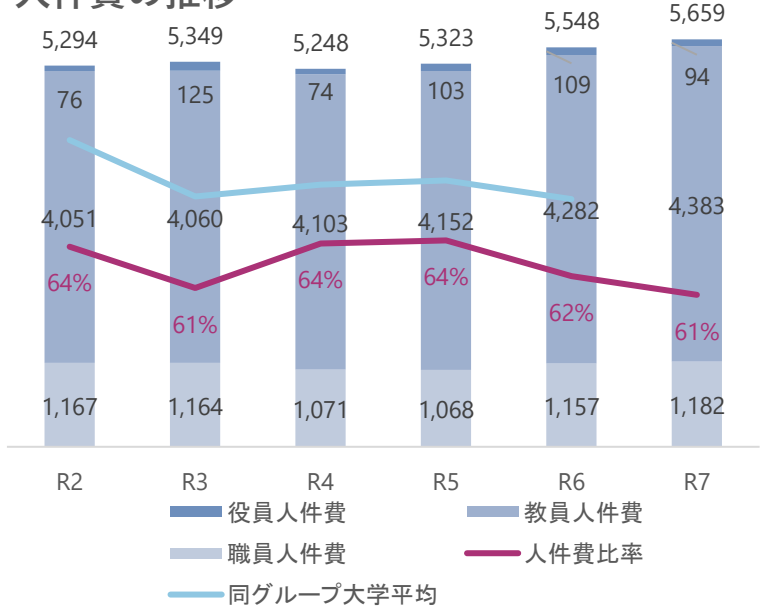
研究経費は、前年度とほぼ同水準である。
教員一人当たり研究経費は、前年度比でやや増加している。

教員一人当たり研究経費: 常勤教員当たりの研究経費であり、この数値が大きいほど教員一人当たりにかけられた研究目的の物件費等が大きいことを示す。

6. 人件費・一般管理費

人件費の推移

(単位：百万円)



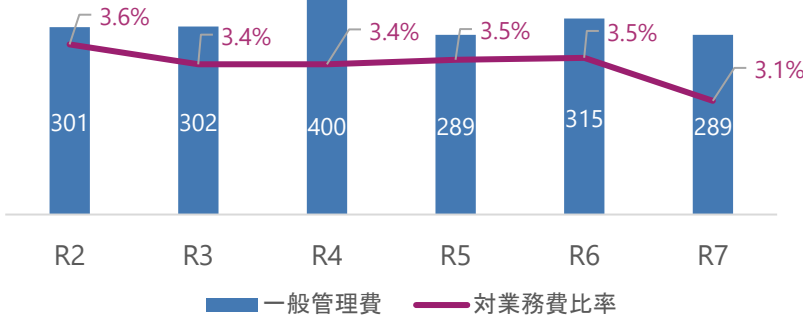
人件費は、教職員数の増加や人事院勧告に準じた給与改定等のため、前年度比で増加している。
同グループ大学と比較すると、近年の人件費比率は、平均を下回る傾向にある。

人件費比率：人件費が業務費に占める割合を示す指標。この数値が高いほど、学内の教育・研究等の業務が主に教職員等の人材に依っていると解釈できる。

一般管理費の推移

(令和2年度分については取手校地ライフライン再生工事に係る支出193百万円を除いた金額を表示)

(単位：百万円)

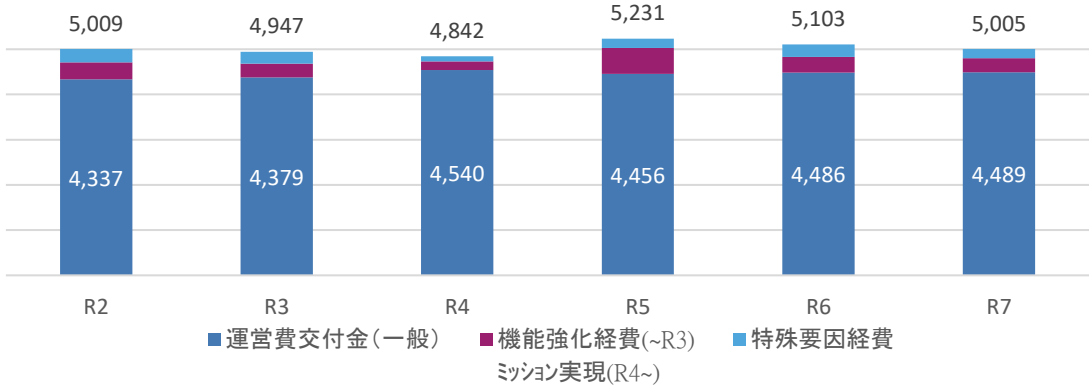


一般管理費は、前年度に例年より多額の修繕費等を計上した影響もあり、前年度比で減少している。

7. 運営費交付金

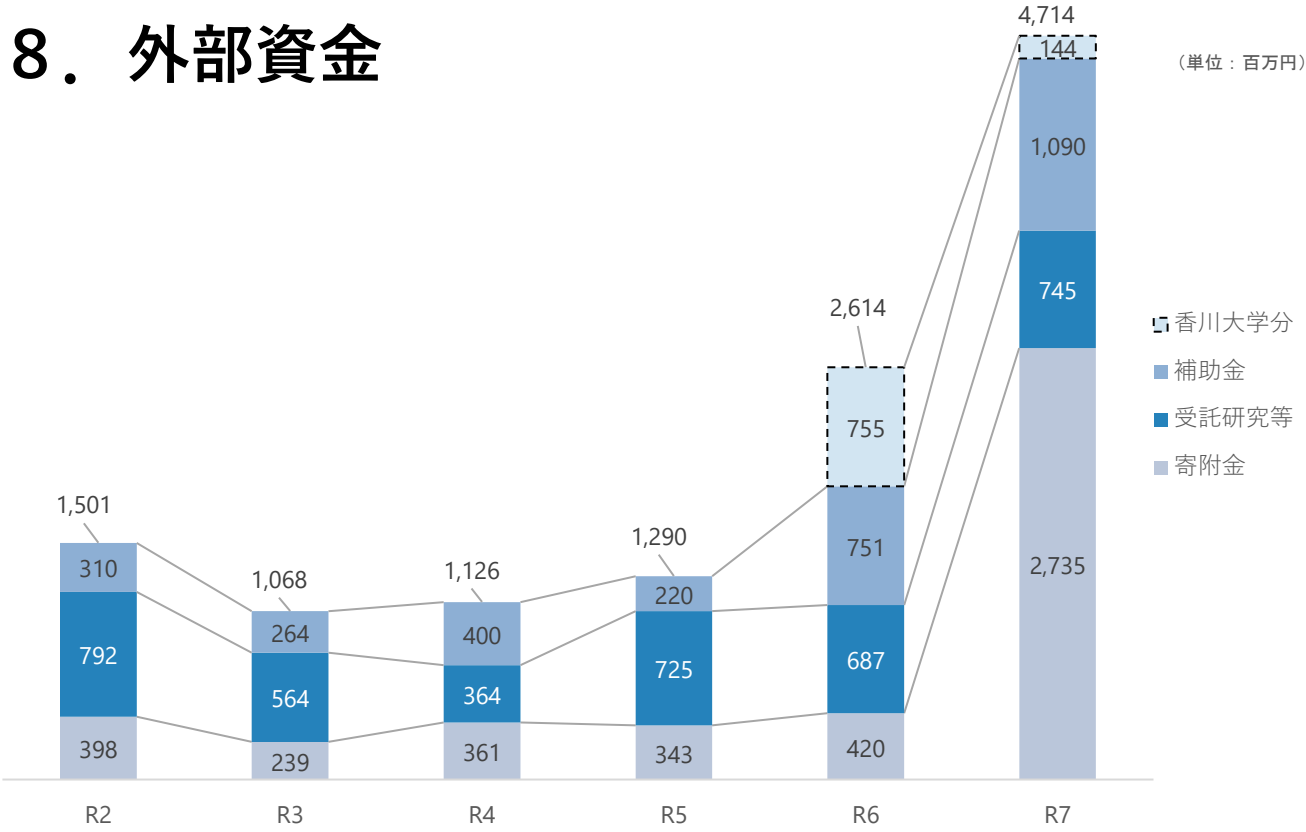
(単位：百万円)

運営費交付金措置額(追加配分含む)



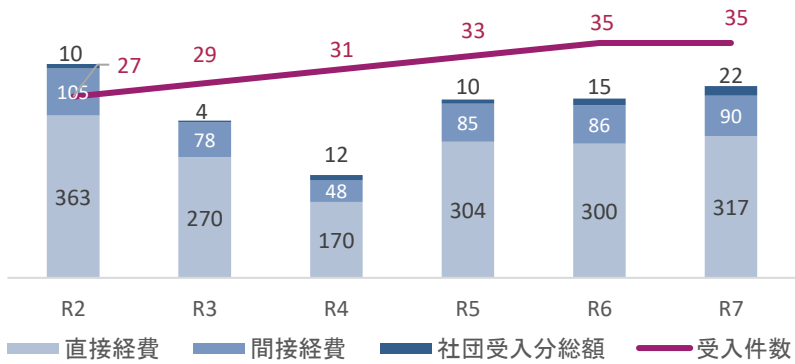
ミッション実現加速化係数(令和3年度までは機能強化促進係数)の適用を受けて、運営費交付金(一般)の基盤的部分は、毎年約1%が削減されている。
期中の補正予算配分により運営費交付金(一般)は6年度とほぼ同額となったが、特殊要因経費及びミッション実現加速化経費の基盤的设备整備分の減により、措置額の総額は、前年度比で98百万円(約1.9%)減少している。
なお、令和8年度においては、ミッション実現加速化係数による削減が廃止されることとなった。

8. 外部資金



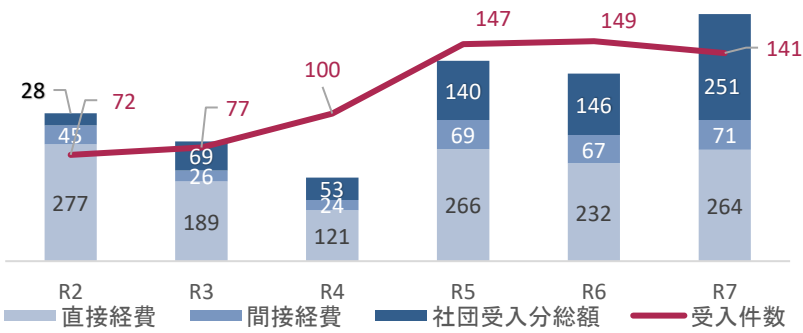
9. 受託研究等

受託研究等の受入額・受入件数の推移 (単位：百万円)



共同研究受入額の増加等のため、社団分を含めた受入額の総額は、前年度比で増加している。

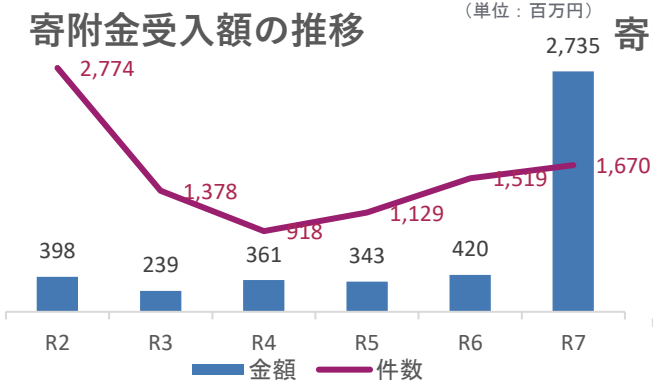
受託事業等の受入額・受入件数の推移



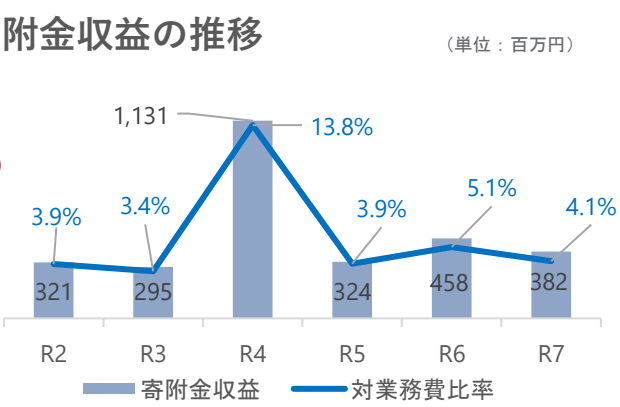
大学分・社団分ともに受入額が前年度比で増加している。

10. 寄附金

寄附金受入額の推移



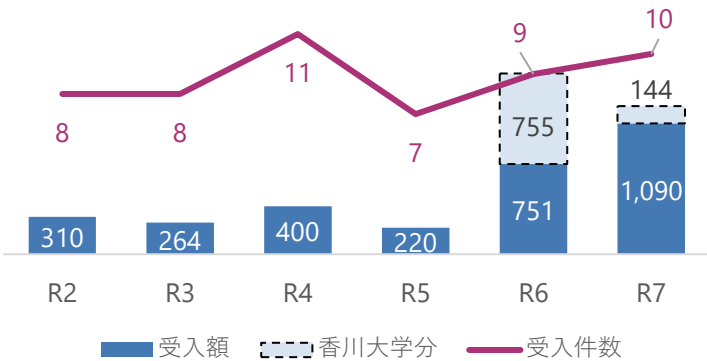
寄附金収益の推移



寄附金は、受入額が前年度より大きく増加している。一方、収益額及び対業務費比率は、ともに前年度より減少している。

11. 補助金等

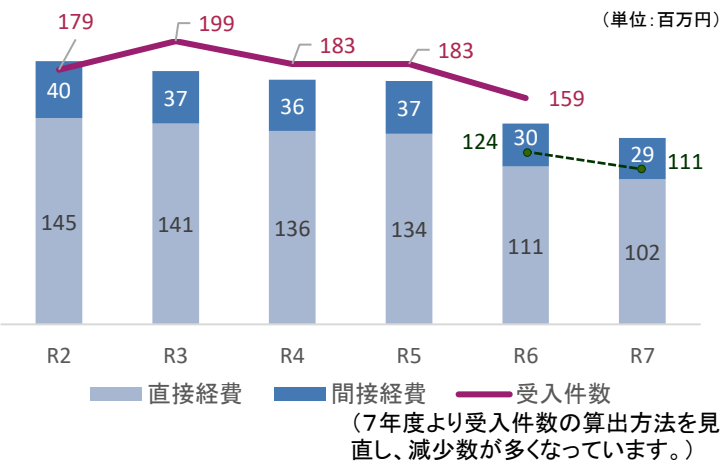
補助金等の受入額・受入件数の推移 (単位：百万円)



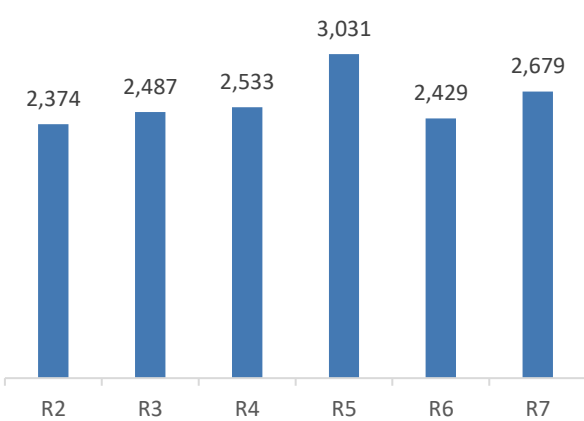
補助金等について、受入総額は減少しているものの、香川大学分を除く受入額は、授業料等減免費交付金の増加等のため、前年度より増加している。
(令和7年度は、香川大学分144百万円を含む。)

12. 科研費

科研費の受入額・受入件数の推移



国の科研費の予算額の推移 (単位：億円)



※日本学術振興会「科研費の予算額の推移」(2026年3月30日現在)
https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_27_kdata_g_4551/1-1_r7.pdf

科研費については、受入件数、受入額ともに、前年度から減少している。なお、国の科研費の予算額は、前年度より増加している。



TOKYO GEIDAI

作成：国立大学法人東京芸術大学 財務会計課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

本財務報告書は、東京芸術大学ホームページに掲載しております。

URL：https://www.geidai.ac.jp/information/info_public/legal